

接触確認アプリに関する有識者検討会合について

令和 2 年 5 月 9 日
内閣官房テックチーム

1. 背景

- 新型コロナウイルス感染症が拡大する中で、IT を活用して、国民の行動変容を積極的に促すとともに、効率的な感染症対策や感染状況等の把握を行うツールを導入することが重要。
- これを実現するためにテックチームでは厚生労働省と連携してスマートフォン向け接触確認アプリの導入を検討している。
- 各国でも同様のアプリケーションの導入が進んでいるが、様々なパターンのもものが存在し、プライバシー保護の観点からも十分に配慮しながら導入を進めていくことが重要。
- 加えて、スマートフォン OS を提供する Apple, Google から接触確認のための API の開発が進められており、サンプルコードなども提供され始めている。
- これらを踏まえ、5 月 8 日のテックチーム会合を踏まえ、接触確認アプリに関する有識者検討会合を設置。

2. 議論の前提

5 月 8 日のテックチーム会合で示された接触確認アプリの方向性を踏まえ、以下の前提で検討会合での議論を進める。

- 今回検討する接触確認アプリについては、①自らの行動変容を確認できること、②自分が感染者と分かったときに、プライバシー保護と本人同意を前提に、濃厚接触者に通知し、濃厚接触者自ら国の新型コロナウイルス感染者等把握・管理支援システム（仮称）に登録できるようにすることによる健康観察への円滑な移行等を目的とする。
- 各国においても公衆衛生当局が同様の接触確認のアプリを開発・リリースしていることを踏まえ、技術的な観点・プライバシーの保護の観点からの仕様書の検討はテックチーム下での本会合でサポートし、アプリの開発・運用については我が国の公衆衛生当局たる厚生労働省が実施する。
- 複数のアプリが発行されることによる国民の混乱等を避けるため、アプリについては厚生労働省から 1 つのアプリのみを発行する。
- 技術的な安定性、アプリケーションの消費電力の節約等、ユーザーの利便性の観点から Apple, Google の提供する API を活用する前提で接触確認アプリの仕様を検討する。
※Apple・Google もアプリストアでの接触確認等のアプリ発行については公衆衛生当局による 1 カ国 1 アプリに限定されている。

- 接触確認アプリの技術的仕様の検証に当たっては、テックチームに参画する民間企業からも協力を得る。
- 接触確認アプリの機能・構造の透明性確保の観点から仕様を公開する。
- 国民によるアプリの目的や利用方法の理解、受容性の確保の観点から、本会合で議論された内容については、政府としてブリーフィングを行うとともに、民間ベースでのオープンな情報発信を行う。

3. 検討会での整理事項

上記前提を踏まえ、本会合では以下の3点について整理を行い、アプリ開発の仕様書に反映することを目的として討議を行うこととする。

1. Apple/Google の API に関する技術・プライバシー双方の観点からの評価
2. Apple/Google の API 活用を前提とした接触確認アプリの仕様書案に関する技術的な検証
3. 個人情報保護法、行政機関個人情報保護法等を踏まえたプライバシー保護、透明性の確保等からのアプリ仕様書の評価

上記を整理した上で、厚生労働省に対して接触確認アプリの仕様書を内閣官房テックチームとして提供する。

4. スケジュール

第1回 5月9日（本日）

- 各整理事項に関する現状の整理・討議

第2回 5月中下旬（Apple, Google の正式な API 仕様発表後）

- 各整理事項に関する取りまとめ
- 接触確認アプリの最終的な仕様書確定

※必要に応じて第3回の開催を検討

以降、厚生労働省で本仕様書に沿って接触確認アプリの開発・運用を行う。

以上